

2014 年度前期 授業評価アンケート結果に対するコメント

—法学研究科—

法学研究科長 鋤 本 豊 博

評価数値にどれほどの意味があるのか分からないが、今回の評価アンケートにおいても、従前通り、ほぼすべての項目に 4.5 以上の高評価を得たことは、構造的に大きな問題が生じていないことを伺わせるものといえよう。ただ、わずかな比率（7.1%）とはいえ、「休講または教員の遅刻が多かった」という印象を与えたことは、大学院が本来の教育研究を実践できる場であるだけに少し残念な思いがする。

他方、「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」という項目の評価は、もう少し低くてもよいのかもしれない。少し無理をしないとついていけないくらいのレベルが、大学院の授業としてふさわしいと考えるからである。